

第3回 函館西部まちぐらし共創サロン開催結果（概要）

令和4年11月18日（金）に元町公園内旧北海道庁函館支庁庁舎2階において、地域住民等38名の参加のもと、函館市西部地区再整備事業基本方針に定める「共創のまちぐらし推進プロジェクト」の一環として、「函館西部まちぐらし共創サロン」を開催しました。

- 主催：函館市（函館市西部まちぐらしデザイン室）、（株）はこだて西部まちづく Re-Design
- 協力：函館市西部地域振興協議会

【開催趣旨】

「西部地区における共創のまち育て」をコンセプトに、地域住民をはじめ、市民やまちづくりに関わる参加者が西部地区の未来を考え共有し、語り合い、アイデアをカタチにする新たな取り組みとして「函館西部まちぐらし共創サロン」を開催します。

さらに参加者一人ひとりの意見やアイデアを尊重し、今後立ち上がっていくプロジェクトを主体的に運営してもらうことを目指します。

今回は「西部地区の町会の取り組み」をテーマに開催いたしました。



会場内の様子

■進行

有限会社オフィス・K 代表取締役 藤本恭子（函館西部地区ニュース取材配信担当）



地域には、町会などをはじめ、まちづくりに関わる様々な人たち、組織や団体があつて構成されています。これから、市民等が主役となるまちづくりを進めるためには、様々な主体が、自分たちのまちは自分たちでよくするという意識、まちはみんなで作っていくという気持ちを持って、まちづくりの担い手となり、それぞれの強みを生かしながら、共にまちづくりを進めていくことが大切となっております。

■室蘭工業大学でやりたいこと

七飯高校3年生 野田龍生さん



【話題提供】

- ・会議に先立ち、第2回共創サロンに参加し、将来、建築士を目指している野田龍生さんより報告を頂いた。
- ・道南地区の中心である函館の西部地区の空き家、特に古民家のリノベーションを通して街を活気づけられる建築士を目指している。
- ・高校の授業で函館の人口減少問題について調べた際に、函館西部地区を中心に管理不全の空き家が多く存在していることを知り、そのまま放置されてしまうと、建物が劣化し、倒壊しやすくなってしまっただけでなく、建物との距離が近い土地では人が住む民家までもが巻き込まれる危険性も指摘されている。
- ・また、函館西部地区は観光客が多く集まる場所でもあり、街並みの景観の悪化は観光や経済面にまで影響する問題となっている。
- ・その解決策を見つけるために、函館西部地区の設計事務所を訪問し、建築家として新築やリノベーション物件を手がけている富樫雅行さんにお話を伺った。古民家の再生は、雰囲気保全を優先すると、補強や快適な生活空間を損なってしまうこともあり、外観と内部の住環境を調和させることが難しいということと再生した古民家を利用してイベントをすることで街を活気づけるというお話を聞くことができた。
- ・また、第2回共創サロンにも参加し、そこでは、函館出身の方々の多くが地方から函館にいつかは帰りたいと思っていることを知ったことから、安心して函館に帰ってこられるような街づくりが大切だと分か

った。

・そこで、私は、昔ながらの雰囲気を残しつつ、古民家や空き家に耐震補強をして、生活や商売がしやすくなるよう修理や改築を施し、さまざまなニーズを持つ人々、特に移住を希望する方々を呼び込み、住まいを提供することができれば、この地域で安心安全な暮らしができ、さらにより賑わいと活気を取り戻すことにつながられるのではないかと考えた。

・そのために室蘭工業大学で学び、研究していきたいことは、まず、古民家特有の解決すべき問題点の分析で、現代の建築基準に適合した住環境はもちろん、誰でも使いやすいバリアフリー化の実現や断熱の工夫、そして、コンパクトで強靱な耐震補強を可能にする改良を目指すことである。

・居住空間を犠牲にしない程度に外壁や内壁を撤去・保存を両立しながら、効果的なダンパー等の制震部材が設置できるかという点や、より強くしかも省スペースが実現できるような新素材の導入、さらには、航空宇宙事業などに使われる新素材の活用も試してみたいと考えている。また、室蘭市は、旧市街地に空き家が多く存在していて、蘭東地区が賑わっているという点が函館市と似ている点であるため、空き家の実地調査をしてさらに知識を深めたい。

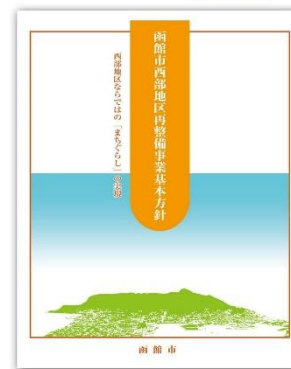
・将来は、耐震技術の研究をしている企業に就職し、そこで実践的な経験を得た後、函館を含めた各地の古民家や空き家のリノベーションに携わりたい。

■西部地区再整備事業について

函館市西部まちぐらしデザイン室 次長 溝江隆紀



西部地区再整備事業について



令和4年11月18日(金)
第3回 函館西部まちぐらし共創サロン



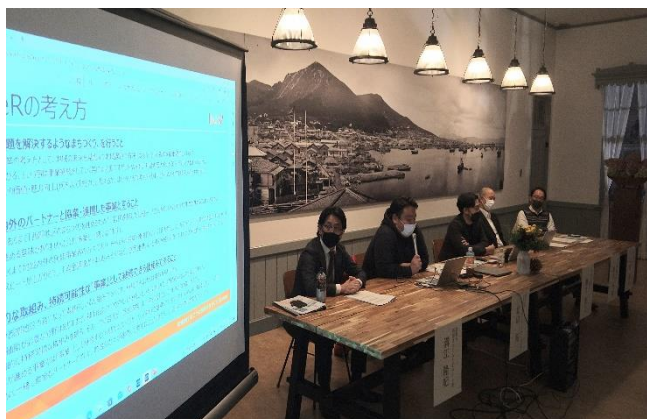
函館市西部まちぐらしデザイン室次長
(函館市都市建設部景観政策担当課長)
溝江 隆紀

【説明内容】

函館市西部地区再整備事業について

「函館市西部地区再整備事業基本方針における将来像と基本理念、重点プロジェクト等」

■ (株)はこだて西部まちづく Re-Design 会社概要・事業概要について
株式会社はこだて西部まちづく Re-Design 代表取締役 北山拓



HWeR

第3回函館西部まちづくり共創サロン
(株)はこだて西部まちづくRe-Design(HWeR)
会社概要・事業概要のご紹介

2022年11月18日

株式会社 はこだて西部まちづく Re-Design

【説明内容】

会社概要等

「会社概要、ビジョン・ミッション、事業概要など」

■ 青柳町会の取り組み

青柳町会 会長 蒲生寛之



青柳町会の取り組み
時代に合った取り組みへの変化

会長 蒲生寛之 令和4年11月18日



【話題提供】

青柳町会の取り組み－時代に合った取組への変化－

- ・ 町会活動への参加，町会長になった経緯
- ・ より暮らしやすい町を目指して
- ・ 町会の認可地縁団体への法人化
- ・ 貸館の利用促進（無印良品移動販売，キッズバザール，七夕，コンサート，今後の予定ほか）
- ・ LIFULL HOME'S 総研より，昨年発表された調査レポート「地方創生のファクターX 寛容と幸福の地方論」では，地域の「寛容性」と地域からの人口流出意向等の間に密接な関係があることが分かり，地域の「寛容性」がこれまでの地方創生政策が見落としていたファクターであるという結論に共感した。

・誰でも無理なく続けられる町会活動の仕組みへ、今後も町会活動を通じて、豊かな暮らしを皆と築いていきたい。

■青柳町会の取り組み

弥生町会 副会長 熊谷光昭



弥生町会の取り組み

弥生町会副会長 熊谷 光昭

令和4年11月18日(金)

【話題提供】

弥生町会の取組み

- ・町会活動に参加するようになった経緯
- ・新体制での弥生町会改善の取り組み（会則の改定、役員報酬の改定、班編成、班長問題ほか）
- ・町民が集まれる町会にするには（Instagram 発信、回覧板の工夫、SDGs の取り組み、茶話会の開催、講座開催、納涼祭開催、清掃活動、敬老会、今後の予定など）
- ・町内会への加入メリット（交流、防災・防犯活動、災害時の助け合いなど）
- ・町内会には魅力やメリットがないと思われがちであるが、住民同士で助け合い、住みやすい町にするために必要な組織である。これからも魅力ある西部地区にするために、いろいろなイベントを企画し、たくさんの方が集う弥生町会として盛り上げていきたいと思う。

（参考：弥生町街角アンケート [テーマ] どうしたら西部地区に移住していただけるか）

- ファミリー層をターゲットに大きな公園や遊具など利用できる施設が増えたら良い
- 受け入れたい西部地区と受け入れる状態がそこまで整っていない西部地区のねじれが解決するといい
- 西部地区に限定するなら地主が土地を手放して分譲すること
- 子育て世代に向けた市営や道営住宅があれば子供が増えるのでは
- 世代によって優先する要素が違う など

■参加者との意見交換



意見交換会の様子

意見交換では、3名の参加者から以下の意見等が寄せられました。

意見内容【抜粋】

(西高校教諭)

- ・西高校で探究活動を軸にした授業で、まちの課題を解決しながらできる授業を考えており、その仕組みを学校内で作っている段階である。学校の先生の管理ではなく、地域・まちの人と生徒で何かしら取り組める仕組みができればと考える。

(市・溝江次長)

- ・この共創サロンの趣旨に合致するので、共創サロンの場を通じて取り組むのも一つの方法である。具体的には今後相談させていただきたい。

(地域住民)

- ・地元町会から会長の打診を受けている。
- ・マルシェを通じた取り組みをしており、現在、西部地区以外を主に開催しているが、西部地区内でも当該取り組みを通じた地域交流を行っていききたい。
- ・とりわけ町会の横のつながりを何とか作っていただきたい。

(弥生町会長)

- ・横のつながりに関しては、12月11日に7町会の合同会議が開催される等繋がる機会は多々ある。会長への打診を受けていることについては、町会活動は一人ではできない、どんな仲間とどんなチームでやるのか。4番バッターだけではなく、色々なメンバーで活動していかなければならない。メンバー集めは重要である。
- ・ついでに理学療養士をしているなかで、ノーマライゼーションという言葉がある。地域を考えた場合、そこには色々な人がいて、町会活動する人もいれば、否定的な人もいるなど、様々な要素を含めて地域が成り立っているということ。
- ・更に地域包括ケアシステム、キーワードは団塊の世代、75歳・2025年問題であり、75歳は後期高齢者に分類され、介護が必要という状況である。
これを乗り越えて行こうというのが地域包括ケアシステムで、地域・町ぐるみで高齢者を助けていくという、この根本的な活動は、おそらく町会活動なのか（隣のおばあちゃん元気かなど）と考える。

(参加者 町会役員)

- ・町会活動は町会費の集金はじめ、街路灯維持や清掃活動など様々な仕事がある。
- ・中でも町会費を集めるのが一苦勞であり、地域住民が全員公平に町会費を集めるシステムとして、市が何らかの税金で徴収し、各町会に分配できないものか。 など

今後も、いただいた意見等を踏まえ、このような機会を引き続き設けながら、本サロンの運営をはじめ、西部地区にいて様々な「まちぐらし事業」や「まちを学ぶ場の提供」などの取り組みを進めていきます。

まちづくり・まちぐらしに関する取り組みは、地域の共感を得て進めることが非常に大事だと考え、より多くの市民・団体の皆さんに西部地区のまちぐらし事業を知っていただけるよう、取り組みの可視化・見える化にも努めていきます。

なお、「函館西部地区ニュース（11月26日）」では、本サロンの開催の様子を配信中です。

次回、「第4回函館西部まちぐらし共創サロン」は、岩手県紫波町企画総務部企画課・課長の鎌田千市氏をゲストに迎え、「公民連携」をテーマとして開催を予定しております。